

池内・弁天池に祀られる弁財天

vol.223

西田 孝司 (松原市文化財保護審議会)



▲ボートが浮かぶ弁天池の弁財天社と魚釣り (昭和30年頃, 小林克氏蔵)



▲天美荘園の広告 (昭和13年10月25日「大鉄新聞」)



▲天美荘園内に祀られる弁財天社 (天美東6丁目)



▲弁天池跡に祀られる弁財天社 (天美東7丁目)

天美荘園分譲地開発が契機 箕面山瀧安寺の弁財天勧請

近鉄河内天美駅前東側ロータリーを線路沿いに少し北に行くと、駐輪場前に弁財天を祀るお社が見られます。もともと、ここには弁天池があり、今の徳洲会病院南側につくられていた中島に弁財天社が祀られ、池中に鳥居が浮んでいました。昭和四十九年(一九七四)、弁天池は河内天美駅東部開発によって埋め立てられたことから、昭和五十二年(一九七七)十一月、この場所に新たに弁財天社を遷座したものです。弁財天を池の中島に祀っていたので弁天池とよんでいたのです。

しかし、弁天池の名は古くからあったものではありません。同地は天美東七丁目ですが、江戸時代は河内国丹波郡池内村でした。享保二十年(一七三五)に発刊された『河内志』では池内池とよばれ、『日本書紀』の推古天皇の時(七世紀)に掘られたとする依網池だと伝えられています。古代、天美の地は依網郷と称されており、依網池は今の大阪市住吉区庭井町付近から天美西の今池水みらいセンター西北堤あたりまで広がっていた大池でした。池内池が依網池の一部という伝承は否定的ですが、一般的には上ノ池という名で親しまれていました。天美北小学校の南側に下ノ池があるように、池内村では狭山池水系の上に掘られたことから、上ノ池

と名づけられたと思われる。

大正十二年(一九三三)、大阪鉄道(現近鉄)布忍―大阪阿部野橋(当時は大阪天王寺)間が開通し、天美車庫前駅(現河内天美駅)が開業しました。すでに、前年には道明寺から河内松原駅を経て布忍に至る電車が走っていましたので、沿線には大阪市内から人々が移住し、昭和に入って住宅地が開発されていきました。

昭和九年(一九三四)春、上ノ池の北側に南海土地建物株式会社が天美荘園を開発分譲しました。今の阪南大学キャンパスを含む一画で、線路を西限として、上ノ池北堤の府道大堀―堺線から北に広がっており、当時の基盤状の区画が現在もほぼ残っています。この時の整地にあたって、上ノ池の土砂も利用されました。十四年には、大鉄工学校(戦後、大鉄高校。のち阪南大学高校)も現阪南大学の地に開校しています。

この分譲地に小林清蔵(明治十五、昭和二十八年)が大阪市天満から移ってきました。清蔵は丹波篠山(兵庫県)の出身で、もともと天満で酒造店を営んでいました。清蔵は信仰心に厚く、箕面の滝近くの古刹である瀧安寺(箕面市)の本尊である弁財天のお詣りを欠かせませんでした。清蔵は、天美荘園の基礎固めに上ノ池の土が運ばれたことから、池の水神として瀧安寺弁財天の霊験をいただき、池中に中島を新たに造成し、弁財天

社を祀ることを提案し、地域の人人や南海土地建物の協力を得たのです。祠は東向きとしましたが、池中に建てられた鳥居は住宅地を見守るよう北向きにされました。

昭和十三年十月二十五日、大鉄新聞に「風光明媚 安住の別天地」「天美荘園」「阿部野橋から十分河内天美驛から二丁」という広告が「大鉄沿線河内天美驛前 南海土地建物株式会社 電話更池四番」から掲載されました。そこには、対岸とは橋で結ばれた弁財天社の中島と鳥居が描かれています。同時に清蔵らは魚釣りやボートを浮かべる行楽地のアイディアも出し、ボート乗り場や釣り橋も設備されました。同社では遊園地の池とともに、分譲地の売り出しを宣伝したチラシをつくり、大鉄でも乗車券付きの魚釣券を発行しています。昭和十年頃以後、上ノ池から弁天池の名が広がり、定着していったのです。

線路沿いに移された弁財天社は新築され、今では毎年十一月二十三日、池内実行組合によって祭典が行われています。一方、創建時の祠や琵琶形の手洗石は、清蔵の孫が所有する荘園内に移され、祠や鳥居は再建されましたが、手洗石は現存しています。弁天池の名のおこりとなった瀧安寺弁財天は、江ノ島(神奈川県)・竹生島(滋賀県)・厳島(広島県)の弁財天と並んで日本四カ所弁財天として有名です。